

耕三の会

能「松風」長山 耕三

コトノ車月をうらむ
共思ふぬ路ありや



この道に進むと決心し、
大学を中退してから
二十五年の月日が
経つことに驚いております。
いろいろな環境の変化に
追われる日々で御座いましたが、
半世紀を目前に
「自分自身と向き合うこと」を
二年前より考えて参りました。

この度「松風」に
挑ませていただくにあたり、
名前の通り「地道に耕して」
参りたく思います。

皆さまのご来場を
お待ちしております。

長山 耕三

協賛
芦屋神社
認定NPO法人 芦屋市国際交流協会
株式会社 尾崎工務店
一般社団法人 コミュニティ援助センター
谷崎潤一郎記念館
株式会社 三井住友銀行芦屋エリア
(五十音順)

2019年 5月 4日 (土) 午後3時開演 (午後2時15分開場)
会場 大槻能楽堂 〒540-0005 大阪府中央区上町A番7号

「能画卷物」国立能楽堂提供

昭和48年生まれ 芦屋市在住。長山禮三郎長男
4歳で初舞台 仕舞「玄象」。以後、子方を約30番勤める。仁川学院中学・高等学校卒業。
桃山学院大学中退後、三世観世喜之師に内弟子入門し、師事。
平成22年地元芦屋にて「芦屋能舞台」を構える。これまでに「石橋」「狸々乱」「道成寺」等を披く。
公益社団法人能楽協会会員。重要無形文化財総合指定保持者。

衆我財団様ご協力のもと「音声ガイド」を導入させていただきます!

観賞の手引きをご活躍中の歌人 梅内美華子 氏に
解説いただきますので、きっと初心者の方にも判り
やすく、新たな発見もあり安心してご覧いただけ
かと思えます。

うめない みかこ
梅内美華子 氏 プロフィール

歌人。馬場あき子に師事、現在「かりん」編集委員、
現代歌人協会理事。角川短歌賞、芸術選奨新人賞
短歌研究賞、青森県褒賞等受賞。歌集『若月祭』
『エクウス』等。よみうり文芸選者。

【チケット取り扱い】2019年3月1日(金)発売開始

■ 前売り券 音声ガイド 1,000 円
(別途保証金1,000円 終演後、機器返却の際お返しいたします)
自由席 3,500 円
指定席 4,500 円
音声ガイド付指定席 5,000 円(予約締め切り 4月24日迄)
※指定席はお好きな席をお選びいただけます

■ 当日券
自由席のみ 4,500 円
音声ガイド 1,000 円
(別途保証金1,000円 終演後、機器返却の際お返しいたします)
※数に限りがあり、無くなり次第終了させていただきます

お問い合わせ・お申し込み 芦屋能舞台

TEL 0797-26-6290
Email info@ashiya-nohbutai.com
FacebookやInstagram「芦屋能舞台」でも情報配信中!

大槻能楽堂

TEL 06-6761-8055
自由席・音声ガイドのみ大槻能楽堂にてお問い合わせいただけます。

【会場ご案内】



大槻能楽堂

- 大阪メトロ「谷町四丁目」下車、⑩番出口を出て南へ約300m(⑪番出口にエレベーター有り)
又は「谷町六丁目」下車、⑦番出口を出て北へ約350m。
(⑦番出口にエレベーター有り)
- 市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ。
※大阪駅から62系統「住吉車庫前」行乗車。
※「あべの橋」(天王寺)から62系統「大阪駅前」行乗車。

駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

背景写真「松風」長山 耕三提供

独調 「養老」 謡 長山 芽生 小鼓 幸 正昭
仕舞 「老松」 観世 喜之
「花筐」 浅見 真州 地謡 小島 英明 上野 雄介
「野守」 観世 喜正 小早川 泰輝 浅見 慈一

ツレ(村雨) 上野 朝彦
シテ(松風) 長山 耕三

能 「松風」 ワキ(旅僧) 福王 和幸
アイ(浦人) 松本 薫

後見 長山 禮三郎
遠藤 喜久
野村 昌司

大鼓 安福 光雄
小鼓 幸 清次郎
地謡 上野 雄介 浅見 慈一
藤井 丈雄 上野 朝義
長山 桂三 藤井 完治
永島 充 上野 雄三

休憩 二十分

(終了予定 午後五時四十五分頃)

能楽は七百年以上続く古典演劇で舞台転換などなく、ひとつの舞台で全てを演じますので想像を膨らませてご覧頂きたいと思えます。新元号を迎えるにあたり「養老」を長女芽生さんと小鼓で数分鑑賞して頂きます。小鼓方幸清流御宗家とは五代に渡り長山家と関係があり、この度は十五世御宗家幸清次郎師にご出演頂きます。

須磨の浦に行き暮れた旅僧が一人須磨明石の月に憧れて、夕暮れの浜辺に立つ。松に目を留め浦人から松風と村雨というあま乙女のことを教えられ静かに念仏をして塩屋に一夜の宿を借りようと主の帰りを待つ。そこに姉妹の亡霊が現れ、秋の月夜とら寂しい浦辺に住む哀れをうたい、水桶をのせた汐汲車を引いて汐汲のさまを見せる。松風は在原行平との恋を回想し、行平が形見として残した狩衣とて思慕の情を訴える。行平の和歌を詠じつつ狂乱し磯辺の松に面影を追う。

在原行平は阿保親王(芦屋にお墓がありその辺りは親王塚町)の子で、能「雲林院」「小塩」のシテ業平の兄です。行平が二人の女性を寵愛したことや秋の月あかり(月光)の中での海人の汐汲の様子など見どころは満載ですが、みづづきは音声ガイドにてお楽しみ頂けます。

梅内 美華子